



『屋久杉の将来をみつめて』

株式会社 山王産業
代表取締役 山王 博和

屋久杉専門で、創業30年目の企業です。原木購入・製材・加工・販売を一貫して20人でを行っています。特に販売においては、社員が売り場にて毎日、直接、お客に手渡しを基本としています。屋久杉は貴重な世界遺産です。ほとんどが数千年の土埋木です。

屋久杉商品は進化して今日に至り、また将来へ向かって進化中です。

1960年代は、現在に比較して伐採量は150倍以上だったにもかかわらず使用方法が見つからなかった時代（チップにもならなかった）

1970年代は民芸家具として家具産業化として進化した時代（作れば何でも売れた）

1980年代は高付加価値が求められた時代（質の要求が強まった）

1990年代は超付加価値商品しか売れなかった時代（衝動買いが少なくなった）

2000年代はいよいよ、「屋久杉でしか出来ない」商品開発が要求される時代（欲しがる物しか売れない）

現代は、消費者の海外旅行の一般化により、国産商品を高級海外ブランド品と比較して判断するようになり、品質要求が一層強まった気がします。

いままで、常に屋久杉の不思議さを活かして、開発してきました。これからは、伝統工芸産業も継続するが、それを支える現在のハイテクノロジーとの混合商品も有りそうです。

屋久杉を、どんな料理で、どんな味付けで、どんなお客に、どこで味わってもらうかが、重要な点であって、間違っても材料で販売はしません。あくまでも完成品で勝負します。これが、「屋久杉の山王産業」としての企業理念です。「言うは易い」が「行う」は時間がかかる。屋久杉の使い方は、時間がかかっても地場企業が責任をもって構築するべきです。

我が社は、屋久杉の可能性を探るため、他の地

場伝統産業とのコラボレーションも10年行ってきました。

我が社の屋久杉商品は、はじめに、形のある物（家具、建材） 祈りの物（御仏壇・神棚） 香りの物（御香・石鹸） 色の物（屋久杉染めハンカチ） 夢の物（屋久杉クローン苗）と進化してきました。しかも、コンセプト、デザイン、売り方も、共に進化しなければなりません。目標があるから進化であり、その目標とは、もっともっと原木が少なくなった時、可能な商品をイメージすることです。だから、出来る時、出来る事を成就しておかなければ次のステップに移行できないのです。何を作っても「世界の屋久杉」ですから「誇りある商品」でなくてはなりません。おがくずも数千年の屋久杉なのです。

屋久杉原木は、今もって、立方メートル単位で取り引きされますが、金と同じようにグラム単位で取り引きされる日も、近いかもしれません。「木のふるさと*世界の鹿児島」になればいいですね。

鹿児島県工業技術センターの皆様方の助言・ご支援を今後とも宜しく願致します。



本社社屋